

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート									
事業名称							実施主体		
乳幼児のむし歯ゼロ作戦							中保健センター		
事業目的		事業内容				活動指標	R4	R5	R6
中区地域計画における「それぞれに合った健康増進習慣の確立」「歯と口の健康教育の推進」をめざし、次のことに取り組む。 ○中区はむし歯を持つ乳幼児が堺市で多い区である（3歳児健康診査のデータより）。2歳頃は乳臼歯（奥歯）が生え始める大事な時期であり、このタイミングに歯科保健指導を行うことで、乳幼児のむし歯を減少させ、かかりつけ歯科をもつ児の割合を増加させる。		○1歳6カ月児健康診査時に中区に住民票のある2歳児に、むし歯菌活動性検査結果と2歳の歯科相談の案内を郵送し、積極的に受診勧奨を行う。 ○2歳時に保健センターで歯科検診と歯科保健指導を行い、希望者にはフッ化物歯面塗布を実施。受診から3～6か月後にフッ素塗布手帳を活用し、地域の歯科医院を受診するよう勧奨する。 ○間食指導もむし歯予防につながる点から、おやつが3回以上もしくは3度の食事を規則正しく摂れていない児に対しては、栄養士による個別相談の対象とし、希望者には栄養個別相談を実施する。				3歳児健康診査（3歳6か月児）のう蝕罹患率の減少	13.0%	11.1%	11.7%
						3歳児健康診査時（3歳6か月児）にかかりつけ歯科をもつ児の増加	56.9%	54.1%	51.4%
①妥当性		②協働の視点			③インパクト		④効率性		
○	2歳ごろは、乳臼歯が生え始める時期でもあり、歯みがきを嫌がる時期でもある。この時期に歯科指導を行うことで、乳幼児のむし歯予防と歯磨きに関する保護者支援につなげることができるため、本事業は妥当である。	○	保健センターでの歯科検診後は、地域の歯科医院につなぎ、かかりつけ歯科と連携して、継続したむし歯予防に地域で取り組むことができた。			○	中区独自の取組として、むし歯のハイリスク児だけでなく、2歳児全数を対象として2歳の歯科相談を実施している。		
⑤自立発展性		総合評価							
—	適切なタイミングで、専門職が関わることにより、むし歯予防のみならず、歯みがき習慣やおやつの食べ方など望ましい生活習慣の獲得にもつなげることができ、将来の歯と口の健康に寄与する。本事業は行政の専門職の関与が必要であり、検証にふさわしくない。	○	・う蝕罹患率について、むし歯ゼロ作戦開始(令和元年)以来、昨年度まで中区のう蝕罹患率は減少し続けていたが、今年度はほぼ横ばいではあるが微増した。かかりつけ歯科を持つこどもの割合は、昨年度と比較し減少した。 ・歯科検診に来た児を、保健師や管理栄養士につなぐことによって、保護者や児に指導や情報提供を行うことができています。 ・本事業開始の令和元年度と令和6年度を比較すると、う蝕罹患率が19.8%から11.7%まで大きく減少しており、乳幼児のむし歯の減少に寄与していると考ええる。						
拡充 継続 見直し 廃止		う蝕罹患率は微増し、かかりつけ歯科を持つ児の割合も減少した。う蝕については、歯みがきの方法のみならず食習慣や生活習慣についても指導を行い、むし歯を作らないように保護者に指導している。歯科相談の受診勧奨を積極的に行いながら、保護者への指導内容について改めて見直し、正しいう蝕予防の知識の普及のために指導を続けていく。また、かかりつけ歯科を持つ児の割合については、フッ化物手帳を使用し、う蝕がなくても歯科医院で定期検診を受ける必要性を今後も伝えていく。歯科衛生士のみならず、多職種で連携しながら生活習慣の面の指導を行うことによって、う蝕罹患率の減少をめざす。							